

# 鴨沂高校同窓会会報

第5号 ■ 2000年11月20日  
京都府立鴨沂高校同窓会理事会発行

■ 連絡先 ■

京都西陣郵便局私書箱20号

TEL&FAX ■ 075-671-1067

E-mail ■ cbb50100@pop06.odn.ne.jp

## 同窓会総会開催される

1999年11月14日、京都市内で  
=== 新会長に上村淳氏（4期卒）を選出 ===

★★★★★★★ 年会費制の導入を承認

### 都ホテルに約150名が参加

1999年11月、3年ぶりに鴨沂高校同窓会の定期総会が開催されました。京都東山の都ホテルに全国から各期卒業生が参加、約150名が参加し盛大に催されました。井口常任理事の司会で始まった総会は、荒木会長の挨拶に続いて、名誉会長の母校鴨沂高校、小林校長先生の挨拶のあと、総会議事が開始され、藤野理事長による事業報告、木村常任理事・会計による会計報告、予算の提案、井口常任理事・名簿管理センター担当による事務報告などが行われました。引き続き懸案であった同窓会財政健全化の核となる年会費制度の導入について藤野理事長から提案があり、質疑応答の末、会則の一部改正が承認されました。総会議事に引き続いて、荒木会長の任期満了に従って新しい同窓会会長に上村淳氏（4期卒）が選出され、新旧会長の退任及び新任挨拶を経て総会議事は滞りなく終了しました。

### 猪熊氏の講演に大きな拍手



第2部は歴史考古学学者として著名な京都橘女子大学教授・同窓会副会長猪熊兼勝氏（8期卒）による同窓会設立50年記念講演が行

われました。「古代遺跡発掘余録」と題された講演は昨今考古学の話題の中心となっている奈良県明日香地方での様々な遺跡の発掘の様子から太平洋のイースター島における巨石文化モアイとの関わりまで、氏の幅広い学識と活躍ぶりが、スライドなどを使って、学術的でありながら肩の凝らない軽妙にして洒落な語り口で披露され、会場は時に笑いを交えながら大きな拍手につつまれました。講演終了後は、ホテル内で場所を移しての懇親会。参加した同窓生が世代を越えて楽しく食事や飲み物を摂りながら懇談を楽しみました。

### 理事長に藤野氏再任

同窓会総会において、任期満了に伴い新しい役員を選出が行

### ご挨拶

鴨沂高校同窓会会長 上村 淳



このたび同窓会会長を務めることになり、母校に対する想いを今更のごとく深めております。

高校時代と共通の時期をともに過ごし、また同じ学舎に学んだ、一期一会というのでしょうか、他の人たちとは違った経験を持つ者同志として大切にしておかなくてはならない絆を感じています。

めまぐるしく変化し、多様に展開してゆく社会の中に、ややもすれば今・現在のみに視点を置くことを余儀なくされそうな今日であります。過去があり、今日があり、未来があることを再認識し、己の在りようを模索するものでなければなりません。

学校教育のありよう、そして生徒の思考、校風は時代とともに変化してゆくのを実感しながら、決して同窓会の存在が学校にとって負の存在であってはなりません。賛意、批判共々同窓会が追うべきところは少なくないと思います。

同窓会活動は母校への熱い想いをエネルギーに、縦・横の連携を深め、活力あるものとし、謝意を込めて母校に恩返しをしてゆきたいと思っております。

同窓生の皆様には主旨ご理解の上、ご協力いただきますようお願いする次第です。（第4期卒）

われました。会則によって総会では同窓会会長と理事が選出され、理事長などは理事による互選で選出されることになっています。会長に上村淳氏が新任されたほか、以下再任を含めた新しい理事が選出されました。後日行われた新理事会において、藤野英雄氏（4期卒）が理事長に再任され、常任理事や会計などが互選されました。同窓会の役員は逼迫する財政の関係もあり、交通費や役員諸氏の持ち出し分の実費弁償すらできない完全無報酬です。すべて皆様のご厚意で成り立っている組織です。何とぞよろしくご協力くださるようお願い致します。任期はいずれも次回総会までとなります。（役員名簿は3ページに掲載）



鴨沂高校同窓会

理事会活動のご報告

理事長 藤野英雄



昨年11月14日、京都賦上の都ホテルで鴨沂高校同窓会が開催されました。その内容については一面の記事をご覧戴きたいと思いますが、会則通りの3年に一度の定期総会であり、同窓会運営がこの面では安定し始めている結果と考えています。また会報の発行も時季がやはずれながらも、毎年定期的に発行できるようになりつつあるのも一定の成果ではないかと考えています。会員名簿の管理もコンピュータによるデータベース化に着手してほぼ5年がたち、同窓会の三大事業ともいえる総会の開催、会報の定期発行、名簿の管理はいずれも順調に推移しているものと思います。

しかしそれら事業を支える財政の確立が今後の最重要課題であります。同窓会の財政は従来、現役生の卒業時、すなわち同窓会の会員となった時に負担していただく入会金2千円のみで頼っており、卒業生(新会員)の数も毎年すでに300名を大きく割り込んでいて、さらに支払い状況は割に満たない有様です。

一方、会員の皆様方に年一回の会報をお送りするだけで2百万円近い費用が必要です。この状態では同窓会の財政は数年のうちに破綻いたします。財政の健全化こそ同窓会を継続的に運営していく上で急務であると考えます。今般の総会では会則を改正し、入会金を廃止して年会費2千円をご負担戴きたくご承認いただいたものです。会則の全文を4ページに掲載致しましたのでご覧下さい。

ただ、これもどれだけの皆様が会費をお納めいただけるかが問題です。他の高校の同窓会を見ましても会費の徴収率は5%から10%という状態です。

どうか会員の皆様方のご協力を戴き、折角活動を復活した同窓会ですから、是非活動を続けていきたいと思っておりますので重ねて皆様方の切なるご支援、ご協力をお願い申し上げます。

次に平成12年2月9日に役員会を開催し別掲の通り会長以下理事役員を選出致しましたのでこれからもよろしくお願い致します。(4期卒)

事務報告

データベースから見た同窓会の現況

2000年10月15日現在同窓会の現況は下記の通りですが、その特徴は消息のつかめない方が更に増えたことです。会報の定期的発行の意図の一つが消息の分からない方々の追跡ですが、決して充分でなく、この問題をいかに克服するかはますます重要な課題になりそうです。

■会員総数 24,192名

(内訳)	消息確認	18,248名
	消息不明	5,272
	物故者	672
	京都府内在住者	13,603
	京都市内在住者	12,286
	関東在住者(静岡~長野~新潟以東)	1,568

名簿管理センターの設備

名簿管理センターでは主にコンピュータデータベースによる名簿管理を中心に行っておりますが、他にも会報の編集・版下の作成を始め同窓会の事務局としての役割も担っています。今夏には導入以来5年ぶりにコンピュータの更新をいたしました。今後年会費の管理が日常的な仕事になるかと思っております。すでに年会費に関してはシステムの構築を終えています。

■機器 コンピュータ 富士通FMV535R

使用OS Windows 98  
ワープロソフト 一太郎V10  
ワード2000

データベースソフト

ロータスアプローチ2000

スキャナ エプソンGT5500

プリンタ エプソンMJ1100

今後の課題

会則の改正により年会費をお預かりする事になり、その管理が新たな業務となります。実際の金員の収受を行う会計と密接な連絡を保ちながら、会員各位別の収納状況を正確に把握していかねばなりません。この部分の信頼性を高めることが新たな、そして大きな課題になることと思っております。会員も皆様のご協力をお願い致します。(事務局名簿管理センター)

《会計のご報告》

会計担当常任理事 木村 正

下記の通り、総会において会計の報告が了承されました。なお平成12年3月31日現在の現金・預金残高は次の通りです。

手許現金	244,387円
通常貯金	218,870
定額貯金	7,665,380
合計	8,128,637

平成年10度京都府立鴨沂高等学校同窓会会計報告

平成10年4月1日~平成11年3月31日(単位:円)

支 出			収 入		
科 目	予 算 額	決 算 額	科 目	予 算 額	決 算 額
名簿データベース維持費	160,000	154,096	前期繰越金	9,274,989	9,274,989
会報出版費	1,800,000	0	入会金収入	150,000	78,730
会議費	30,000	18,850	名簿等収入	0	44,730
通信費	130,000	47,197	預貯金利息収入	400,000	491,361
雑費	40,000	17,400			
予備費	100,000	0			
(小計)	(2,260,000)	(237,543)			
次期繰越金	7,564,989	9,652,267			
合 計	9,824,989	9,889,810	合 計	9,824,989	9,889,810

次期繰越金明細

手許現金	1,297
通常貯金残高	257,097
定額貯金等残高	9,393,873
合 計	9,652,267

以上の通りご報告致します。

平成11年5月9日

会計担当常任理事 木村 正

監査の結果、上記の報告書の内容に誤りのないことを認めます。

平成11年11月6日

監 事 安田 俱子

# これからの夢

(社) 京都鴨沂会会長 松本美智



この4年間、前・奥田会長とともに歩んで参りましたが、息をつく暇もなく意外な会長という重責の前に立たされ、困惑している次第でございます。

さて私たちの大切な、この京都鴨沂会も現在では高齢化がすすみ、早く若い世代の方々へ…というのが当面の課題でございました。ところが鴨沂高校には別に鴨沂同窓会というものが既成の事実としてできあがっており、この京都鴨沂会とは内容の異なった点もあります。従って合併は至難の様でもありますので、まず鴨沂高校同窓会会員の

方に少しでも京都鴨沂会の存在を意識して欲しい、その上で少しずつでもこちらへ入会してくださるようにお誘いしていきたいと考えております。今期は嬉しいことに男性の会員も理解していただき理事一名、幹事三名まで協力して下さる形ができあがりました。然し高校の方のご意見として次の文章が会誌に掲載されたことをご紹介します。

「これからは少子時代とともに高齢化が進んできてますます高齢者の人数が多くなる。だから若い人と世代交代していく必要もない。同窓会の様な高齢者の多い団体は、交替せずに高齢者の手によって運営していけばよい。若い人に頼らず自立する高齢者を目指して、そこで生き甲斐を持つことである。」

たしかに目下京都鴨沂会は事実その通りですが、若い人に期待をしない方がよい、ということであっても、昔から尊ばれた手作業は大変な負担になるようしており、機械をいれた合理的な事務処理などお若い方々のお力が必要で、一方、高齢者は鴨沂の歴史の中に残ってもいければ、また世の中への大切な批判が役に立つこともあるはずだ、と思えます。同窓会の方もすでに定年に達された方も多く生活の中心より余力を持たれ私たちの心を理解していただけるでしょう。そこで時間をかけてよき後継者として参画指導して下さることを待ち望んでいるのです。現在の若者はめまぐるしい変化の中で同窓会離れしていくのはやむを得ないこと。また大学や社会でそれぞれの責任者として暇もない状態はよく理解できます。やがて第二の人生を迎えられる頃に眼を開いて下さればありがたいことです。そこで一人でもこの鴨沂会館に出入りして下さって利用、活用して戴いて会館をホームグラウンドとして活動して下さい。その日の来るよう心から念じている次第でございます。

(旧制府立第一高女・昭和13年卒)

## 同窓会と京都鴨沂会

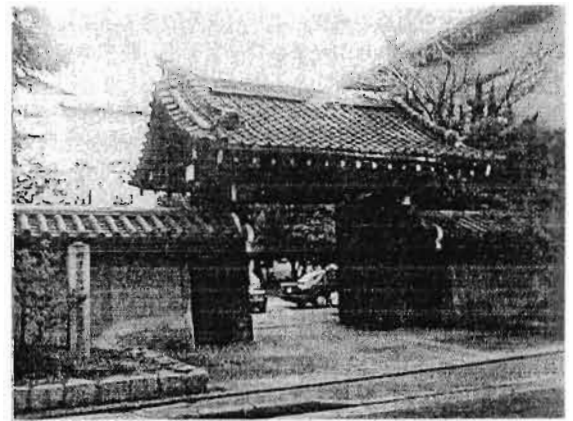
(社) 京都鴨沂会評議員・幹事 井口 悟

ご存じのように、社団法人京都鴨沂会は、鴨沂高校の前身、旧制府立第一高等女学校(府一)の同窓会組織です。全国に同窓会数ある中で、文部大臣管轄下の社団法人として活動している同窓会はきわめてまれな存在ではないでしょうか。戦後、新制鴨沂高校創立と同時に府一はその歴史にピリオドを打った訳ですからもう50年にわたって卒業生を出されていないわけで、高齢化の波に洗われながら女性ばかりでその運営を立派になさってこられたことに深い感銘と敬意を覚えます。



そんな鴨沂会がその定款を変更されて鴨沂高校卒業生にもその門戸を開かれて久しくなります。組織原則の大きな違いから合併が事実上不可能な状況の中で、私どもを後嫡としていただいたことに深い感謝の念と意気を感じて、同窓会とは特に役員レベルで相互の交流を図って来ました。すでに府一に学籍のない鴨沂高校卒の鴨沂会員は500名を優に越え、高校卒業生も役員に参加しており、今年度より評議員の枠は8名に増員され、幹事3名、そして理事会には鴨沂会初の男性理事として同窓会の藤野理事長が選任されました。鴨沂会は公益法人ですから様々な公益性の高い活動も要求され、社会的な貢献、会館の開放、さらに鴨沂会員の親睦と財政的基盤強化のためのバザー、そして創刊以来137号に達している『鴨沂会誌』の発行など多彩な活動を行っています。鴨沂会館は鴨沂会の財産であり活動の拠点であります。貴重な「場」として今後も維持活用していかねばなりません。このことは私たち高校卒業生も無関心ではられないのではないのでしょうか。今回「同窓会会報」にも鴨沂会の松本会長の寄稿がございますが、同窓会会員諸氏におかれましても鴨沂会へふるって入会参加され、まさに同じ学舎に学んだ同窓同士、ともに鴨沂会の発展と運営にご協力願えれば、と思っております。そのことは同窓会自身の発展にも必ず寄与できるものと信じております。

(鴨沂高校19期卒・同窓会常任理事)



### < 鴨沂高校同窓会役員名簿 >

- 会長 上村敦之 (4期) / 副会長 猪熊兼勝 (8期)
- 名誉会長 小林彬啓 (鴨沂高校校長)
- 理事長 藤野英雄 (4期)
- 会計 田中清子 (5期)、木村 正 (14期)
- 書記 谷水三喜男 (7期)
- 名簿管理 井口 悟 (19期)
- 常任理事 安田朝子 (1期)、仲谷 番 (3期)、田中清子 (5期)、井上淳夫 (6期)、谷水三喜男 (7期)、福島 玄 (8期)、高橋莞子 (9期)、西尾 齊 (10期)、柳田 稔 (11期)、小島正道 (12期)、河合勝彦 (13期)、木村 正 (14期)、熊谷 勝彦 (15期)、永野福夫 (17期)、井口 悟 (19期)、杉足泰彦 (22期)
- 理事 木村 要 (1期)、小山あけみ (3期)、今井章夫 (4期)、山本啓造 (5期)、山本盛一 (6期)、長谷川弘次 (7期)、小泉 武 (9期)、川島美美子 (10期)、戸川隆博 (11期)、藤田陽三 (11期)、安井 洌 (13期)、福留彰彦 (14期)、村田博史 (14期)、近藤善彦 (15期)、谷口明日香 (15期)、佐川公也 (16期)、鈴木正穂 (19期)、青木栄子 (19期)
- 監事 鈴木穂人 (47期)
- 顧問 末川千穂子 (5期)、秋田宗平 (1期)

(敬称略)



### ■ 鴨沂高校同窓会事務局 ■

連絡先/京都西陣郵便局私書箱20号  
郵便振替/01010-55572  
振替口座名: 鴨沂高等学校同窓会

★★★名簿管理センター★★★

TEL&FAX 075-671-1067

E-mail cbb50100@pop06.odn.ne.jp

京都府立鴨沂高等学校同窓会会則

- 第1条 本会は京都府立鴨沂高等学校同窓会と称する。
- 第2条 本会は会員の交誼を厚くし、母校の発展に寄与すると共に、公共の福祉を図ることを目的とする。
- 第3条 本会は本部を京都府立鴨沂高等学校内に置く。
- 第4条 本会は次の会員をもって組織する。
  - 1 正会員 母校卒業生、及び母校に在籍したことのある者。
  - 2 特別会員 現、旧職員。
- 第5条 本会は次の役員を置く。
  - 1 会長 1名。理事会において正会員中より選出され、任期は3年とする。会長は本会を代表する。
  - 2 副会長 若干名。正会員中より会長が委嘱する。副会長は会長を補佐し、会長事故ある時は、これを代行する。
  - 3 理事 若干名。各学年ごとの正会員中より互選し、会長が委嘱する。または会長が推薦し委嘱することができる。任期は3年とし、再選を妨げない。
  - 4 監事 若干名。理事会において正会員中より選出され、会長が委嘱する。任期は3年とし、再選を妨げない。本会の会計を監査する。
- 第6条 本会に次の名誉役員を置く。
  - 1 名誉会長 1名。母校校長を推戴する。
  - 2 顧問 若干名。本会のため特に功勞のあつた者を理事会が推薦する。
  - 3 名誉役員は本会の会務の相談に応ずる。
- 第7条 理事長は理事の互選により選出され、理事会を召集し会務の執行を決定する。また、会長も理事会を召集することができる。ただし、理事の二分の一以上の要求がある時は理事会を開かなければならない。
- 第8条 理事長は理事の中から必要数の常任理事を指名し、常任理事会を召集し、会務に関して協議し、その執行にあたる。
- 第9条 総会の議長は会長がこれにあたる。理事会、及び常任理事会の議長は理事長がこれにあたる。
- 第10条 理事会は次の事項を議決する。
  - 1 会則の改変。
  - 2 本会の予算、決算。
  - 3 総会の開催、その他の事業計画。
  - 4 役員的人事。
- 第11条 本会は3年ごとに総会を開くほか、必要に応じて臨時総会をひらくことがある。
- 第12条 本会の議決は、出席会員の二分の一以上をもって決定する。
- 第13条 理事長は理事の中より会計担当理事を指名し、本会の会計を担当させる。
  - 2 本会の経費は、会費、寄付金をもってこれにあてる。
  - 3 会員は年会費として金2,000円を納入するものとする。
- 第14条 会員は住所、姓名などに異動があつたときは、そのつど本会に報告するものとする。
- 第15条 本会は理事会の承認により支部を設置することができる。
- 第16条 本会則の施行について必要な事項は、理事会の議決を経て別に定める。
- 第17条 本会則の改正は総会の承認を経る必要がある。
- 第18条 本会の会計年度は4月1日から翌年3月末日までとし、総会において会計報告をする。
- 第19条 本会則は、昭和25年5月21日より施行する。

一部改正 昭和33年10月11日  
 // 平成8年11月18日  
 // 平成11年11月14日

以上

寄稿

関東地区同窓会について

関東地区同窓会事務局長 川崎 猛



本年8月5日(土)、赤坂のホテルニューオータニで関東地区の同窓会が開催されます。これは13年前の最初の関東地区同窓会(明治記念館)から数えて4度目になります。

この会報に今回の様子をご報告できれば良かったのですが、締め切りの関係で僅か及ばず残念です。

私たちは誇りある鴨沂高校を卒業した連帯感を持って、初代久保田文夫委員長を中心に、関東地区(概ね静岡県以北在住)に学年間を縦に繋ぐネットワークを築きあげてきました。このパワーが4度目の総会に繋がり、また京都での鴨沂同窓会を立ち上げる強力なバックアップとなりました。

さらにこの関東でも各学年が活発に同期会を開催していますが、その半分近くは関東地区同窓会結成をきっかけに、学年の同期会へと進展していった功績があります。

今回の関東地区同窓会(野口健委員長/他各期より委員・幹事)は、250名の参加を目論んでおり、京都からも上村会長始め役員各位、又、日頃から交流のある京都鴨沂会東京支部の方々も含めての賑やかな会となります。

しかし当関東地区も問題を抱えています。会員約1700名の1期から51期までの年代の開き。通信費、幹事会等役員会費、資料作成等の一切の費用を総会費で賄っていること。名簿管理や事務局専任者がなく、委員の好意的な奉仕と負担に掛かっていること等です。

今回、同窓会で年会費を徴収することになったそうですが、ホームページの開設など同窓会の啓蒙連絡を図り、更に関東地区の同窓会の運営に金銭的な支援ができればとの期待を持って、事務局を預かる私のご報告とお願いとさせていただきます。(14期卒)

<編集部からお断り>会報の発行が遅れ寄稿載いた原稿の内容と時期がずれてしまいました。この点お詫び申し上げます。後日戴いた連絡によりますと関東地区の同窓会は約150名の参加者で盛会だったとのことでした。なお、同窓会からは藤野理事長、木村常任理事、村田理事が参加しました。(写真は川崎氏)



年会費の納入について

年会費制の導入により、今回より「郵便振替用紙」を同封しております。これは年会費を納入していただくための専用のもので、年会費の納入はこの「郵便振替」用紙をご利用下さい。手数料は不要です。

年会費は1年分が2,000円でまとめて数年分の納入も歓迎いたします。同封の「年会費に関するお願い」には会員各位の年会費に関する個別情報が記載されています。ご自身の入金状況をご確認の上、納付について格別のご協力を賜りますようお願いいたします。なお終身会費制はございません。

ウィーンの森

様々な懸案が山積する同窓会ではあるが財政の再建がとりあえず軌道に乗ったことは喜ばしい。しかしながら会員諸氏のご協力がなければ絵に描いた餅になりかねず、みんなで支えるのだという気持ちが重要に思う。同窓会だけでなく、各同期会や近年活発に活動されておられる「関東地区同窓会」など、様々な単位でその絆を確かめ合う試みが多様にもたれていて、人手、運営原資等それぞれの努力で問題を克服され継続的に運営が行われているご苦労に敬意を表したい。言うまでもなくそれらの集まりは同窓会も含めて自主的なものであり、それぞれに高潔な意志をお持ちの諸氏に支えられているもので、手弁当の奉仕活動であることを考えると、いかにみんなで支え合うことが大事かを痛感する。これからも同窓会、各期同期会など様々な集まりが互いに連携を取り合っ同窓の輪をさらに大きくできればこれに変わる欲びはない。(銀河)